





道場で教わった事を活かしたい

合気道を美也子先生に教わり、今年の六月で丸三年になりました。

天心道場の門を叩いたきっかけは健康の為に。

しかし美也子先生から教わった事は健康面だけではなく、合気道の理論、礼儀、力を抜く重要性や剣術などいろいろありました。

又、多くの人達との稽古の中で合気道の楽しさや精神面での成長を学びました。

これからも初心を忘れず稽古に励み、美也子先生から合気道を通じて教わった事を日常生活でも活かしていきたいと思います。

(菅田 康祐)



相手の気持ちになることを忘れない

僕が天心道場に入門したのは、今から2年前です。通っていた高校が吹田にあつたため、学校帰りに寄れるという理由と以前から母が天心道場の存在を知っており入門を決めました。

入門後しばらくは、稽古時間の関係で美也子先生の稽古を受けることができませんでしたが、去年の夏以降毎週受けさせてもらっています。

美也子先生の稽古を受けさせていたただく中で感じたことは、稽古をするすべての人が気持ちよく稽古できるように先生が努力をなさっているということだと思います。

その後、先生の本を読み天心道場と美也子先生の技の歴史を知ることができました。僕が最も勉強になり、最も理解し

なければならぬことは、「我」を通さず、相手の気持ちになり、自分の立場をわきまえる「思い」が大切だということです。

稽古時間と共に上達してくる自分の技に過信して自分勝手な稽古や相手を傷つけないような技をしないよう心掛けております。基本をいつも忘れぬよう自分の立場を常に考えて稽古し、美也子先生の技に少しでも近づけるよう努力したいと思えます。

(佐藤 正規)



一つ一つの技を大事に

最初合気道は柔道と少し似ている武道というイメージを持つていて、心身を鍛える目的で習いたいと思えました。右も左も全くわからな

い無知からの見学入門で気がつけばもう今年で4年半が経ちました。

稽古に行く回数徐徐々増えるにつれ、しばらくしてから私は合気道という武道に魅力を感じ、天心道場の生い立ちや先生の過去についてもっと詳しく知りたいと思うようになり、今回初めて先生の著書『貴重な時私の合気道』を読ませていただきました。

本書の前半部分で少し気になったことがあります。それは先生がセガールさんと突然の離婚から色々な苦労や困難を乗り越えられ、そして女手ひとつで子育てと道場経営をさ

れてきたことだと思います。すごく大変な思いをされてきたんだと感じました。

私も小学生の頃親が突然勝手に離婚し、父親が何も言わず黙って家を出

出て行きました私は剣太郎さんと同じ年で自分にも妹がいるので片親だけの生活がどれだけ辛かったかどれだけ寂しい思いをしてきたかがすごく分かる気がします。

先生の著書の中で「合気道は我を通さず相手の気持ちになり自分の立場をわきまえる思いが大切です」というフレーズがとても印象的でした。

これからは、一つ一つの技を大事にし、力を入れず、日々の稽古に精進していきます。私はこの本を読んで改めて合気道・気道に対する見方・考え方を理解できたと思えます。

(村上 康蒼)



互いに争わぬ合気道を身に付けたい

大きさは違えども、人は誰しも、試験にしばしば遭遇します。当然、

僕もそのうちの一人ですが、僕がそうした試験と対峙する時、この言葉がふと頭に浮かんできます。「神は、その者に対して、乗り越えることのできる試験しか与えない」この言葉が頭に浮かぶと、自分には乗り越えられる。そんな気がして、勇気と力が湧いてきたりします。

これまでに、美也子先生の前に立ち塞がった試験の数々。それはきっと、先生の内秘められた力を引き出すために用意された出来事だったのではないかと。誰でも通れる道ではない。先生だからこそ通ることのできた道。貴重なときを

読ませていただいた僕には、そんな気がして仕方ないので、そんな試験と立ち向かいながらも、笑顔で振舞われておられる先生の姿が、多くの人の心を打ち、惹きつけ、多くの人が門を叩く

のでしよう。僕が天心道場の門を叩いてから、もう半年が過ぎましたが、猫背がなかなか治らず、毎回のよう先生から注意を受けています。気がつく猫背になつて、肩に力が入ってしま

す。「力を抜く」と言うのがこれほど難しいことだとは思いませんでした。しかし、注意していただいていることとは、合気道をする上で重要なのだと思

い、普段からも極力気を付けるようにしています。

このように、日常の中に合気道を取り入れることで、合気道をより身近に感じられるような気がしています。そして一日も早く、天心道場の掲げる「互いに争わぬ合気」を身体で理解できるようになればと思いま

(森田 秀樹)





またお会いできる日まで…  
剣太郎さんご家族帰国

去る八月五日、道場長藤谷美也子師範のご子息、剣太郎さんご家族が帰国の途に着かれました。五ヶ月の間滞在されていた旨掲示板に記述されたが、そんなに時間が経ったのかと、長い時間であつと言う間でした。

天心道場で普段行われる稽古や吹田での研鑽会など合気道の練習に直接関係することだけでなく、お花見・展覧会などの行事にも参加されました。帰国前に開かれた壮行会では、次々と運ばれる中華料理を囲みながら、道場生と楽しく言葉

を交わされました。会の最後には、美也子先生や剣太郎さんだけでなく、お孫さんである照太郎君・鈴香ちゃんからも挨拶がありました。

帰国後稽古の始まりに並んでいる剣太郎さんや、見学席で遊ぶ照太郎君・鈴香ちゃんの姿がないことに気が付くと、もう日本にいない三人の姿がないのだと、実感がこみ上げ、インツ―夫人も含めて道場生にたくさんの思い出を残して帰られました。

剣太郎さん・照太郎君・鈴香ちゃん、そして素晴らしいご家族を育てられた美也子先生。ありがとうございました。ご家族の笑顔にまた会える日を楽しみにしています。



【お知らせ】

10月14日(日)稽古後、昇級審査があります。

審査を受ける道場生の方は、審査表の準備などがありますので、お早めにお申し込み下さい。

よろしくお願ひします。

武 剣太郎さんインタビュー その2  
僕の見てきた合気道・天心道場

◇「合気道を始められたのは道場長藤谷美也子先生の影響ですか？」

◆「そうですね。生まれてこの方道場で合気道をやっていた、二〜三歳の頃に勧められたのを機に始めました。その頃のことは、記憶に結構残っています。道場の少年部があつて、入り身投げ・1強・2教・3教。同じ技を繰り返しやるかと思えば座り技

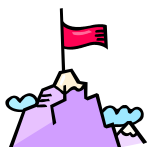
大阪に戻ってくるつもりが2〜3年東京に滞在してからこつちへ戻ってきました。その時に合気道以外にも色々な格闘技を体験しましたが、合気道が一番身体にしみついていました。

◇剣太郎さんの目標は？道場長の教えを守っていきたくないですか？

◆それはもちろんそうですよ。武道はどうしてもアメリカなどでは特にバイオレンス(暴力)を教えているのかという方がたまにおられます。合気道は武道というより哲学。そういうのから身を守って戦争をなくしていく、そういう哲学が合気道にはあります。合気道といえば和・丸

◆小学校の頃と、少し中学の時にやつて。アメリカで高校に行き、大学になってからこちらの生徒さんが教えて下さっていたので、4〜5年やっていたんです。

を大事にしているの、世界平和とかそういうことを言いたいんだと思います。戦勝ち負けをつけな合気道は、討論でも殴り合ひになつたりする。それを形式だつて形にしたら気持ちの流れも変わってきます。争はなかなかくならないけど、戦争じゃなくて優しい武道に代わつていたらいいな、と思います。それが武道の目的だと思ふので、それを目指していけたらと。



前回載せられなかった道場長のご子息、剣太郎さんのインタビューを載せるにあたり、もう一度読み返し、人をホッとさせるような優しい笑顔を思い返しました。

今はアメリカに戻って生活されている剣太郎さんご家族のご健康とご多幸をお祈りします。

●編集後記●

前回・今回の特集に当たり、全員に原稿依頼を任された時、私は編集者としての立場を一瞬忘れなくなりました。

おそろおそろ皆さんに原稿をお願いすると「来ましたね」と困つたようなお言葉と裏腹に、にこやかな笑顔で受けて下さり、気づいた時には予想を遥かに上回り、一度に紙面に載りきれない程原稿が集まり、嬉しく思いました。

特に先輩方が書かれた文章には、何回読み直しても、読んだだけではたどりつけないであろう深い思いを感じる事ができました。

ご協力いただいた方々には紙面上の言葉に表せないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りて御礼申し上げます。(中家)

